

# 1月出荷ヤマジノギク栽培に対する高品質化のための電照方法

農業研究部・花きグループ

## 1. 研究の背景

ヤマジノギクの自然開花期は10～11月であり、出荷期間を延長するため電照抑制栽培が行われている。しかし、電照栽培の草姿は自然開花期の草姿と比べ、分枝が短くなり品質が劣る。そこで、電照方法を改善することで切り花の高品質化を図る。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

今回検討した電照方法

①夕方電照 17:30～19:00(90分) 電照期間は定植～開花期

②慣行(暗期中断) 22:00～2:00(240分) 電照期間は定植～10月15日

※ 定植日 9/10 摘心日 9/30 供試系統 '03R-33'(自然開花期 11月中下旬)



図1 草姿の比較

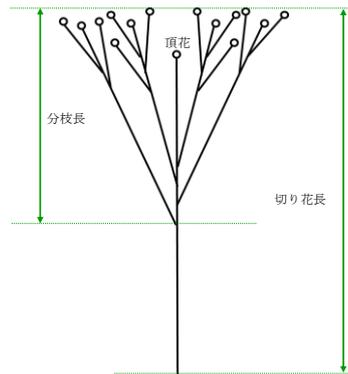


図2 調査部位

表 切り花の諸形質

試験区	平均開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	分枝長 (cm)
夕方電照	1/14	89.2	61.1	43.4
慣行	1/16	78.2	44.0	22.0

・夕方電照を行うことで、慣行の暗期中断に比べ切り花長、分枝長とも長くなり、上位等階級の規格となる(全農階級2L)

## 3. 期待される効果

電照の時間帯を変更する技術であることから新たな投資は必要ない。1月以降も2L品が市場に供給されるため、ヤマジノギクとしての評価が向上するとともに単価が向上する。

## 4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 花きグループ

TEL 0977-66-4706 FAX 0977-67-5218 住所 別府市大字鶴見710-1